

〔開会の宣告〕

遠藤洋路 教育長

令和2年第6回臨時教育委員会会議を開会いたします。

〔会議の成立〕

遠藤洋路 教育長

本日は、私の他5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しております。

会議録署名人は、泉委員と私とします。

日程第1 議事

- ・議第44号 熊本市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について

《大江剛 指導課長 提出理由説明》

遠藤洋路 教育長

今、説明が終わりました。

案1、案2、案3と、参考資料1に出しております。議案としてはどれかを出さなきゃいけないので、案2を出しておりますけれども、全く他の案を否定しているわけではありません。

それから、前回、西山委員からは夏休み要らないんじゃないかというご意見もありましたが、その後の議論で、一斉休校を今後しないのであればそこまで、夏休みなしにまでする必要はないんじゃないのかというご意見があったところです。

今日、学校にまた通知をしますけれども、今後は基本的には、感染者が出た場合にはその学校は一旦休校にしますが、その学校以外のところに関しては特に休校にはしません。またその学校についても、濃厚接触者等の状況を見て、順次、できる学年、できる学級から再開していくということで、今後は休校については最小限にしたいという前提で、この案を作ったところです。ですから、この後、2か月、3か月、また休校になるということは、この案では想定をしていないところです。

ということで、前回、短縮しないほうがいいんじゃないかというご意見から、夏休みが要らないんじゃないかというご意見まで様々出たところですが、この3案、しない、それから6日間と、12日間ということで、具体的にじゃあどうなるかというスケジュールは、このカレンダーがついていますけれども、しなかったらこのぐらい、6日間、前半、後半、それぞれ短縮したらこのぐらいというのを示してあるところです。

では、これについてご意見がありましたらお願いいたします。

令和2年（2020年）第6回臨時教育委員会会議録【6月15日（月）】

西山忠男 委員	まず、データの読み方について質問させていただきます。参考資料の3ですが、調査結果の4番、「夏休みを短縮する場合の時期は」という質問に対して、答えたのは誰ですか。校長ですか、それとも教師ですか、それとも生徒の意見なんですか。
大江剛 指導課長	これは、学校に聞いておまして、最終的には校長の判断です。
西山忠男 委員	校長の判断ですね。
大江剛 指導課長	はい。
西山忠男 委員	分かりました。 それで見ますと、小学校と中学校は、青と緑は逆転しているわけですけども、中学校では、開始を遅らせるだけではなく、2学期の開始を早めるという意見が73%あるわけですね。そうしますと、小学校と中学校は夏休みの短縮時期を別にしてもいいんじゃないかという考え方もあると思うんですけども、どちらも同じようにするという案になっていますよね。
大江剛 指導課長	はい。
西山忠男 委員	それはどうしてでしょうか。
大江剛 指導課長	ちょうどこの真ん中のオレンジの2学期の開始を早めるだけにつきましては、今回なかったわけですが、小学校の方は夏休みの開始を遅らせるというのが4分の3ということと、中学校は逆に、今、西山委員おっしゃったように、両方というふうなところで。今回、学校のほうに、夏休みをどれくらいカットするとしたらというふうなところはお聞きしなかったものですから、この三択でいけば、前も後ろもカットというふうなところで中学校はお答えされたというふうに感じておりますので、合わせるとなると、夏休みの開始を遅らせる、そんな方向に行くのかなというふうに考えます。
遠藤洋路 教育長	私からも1点、補足で説明しますと、この参考資料3の（4）は、何日間短縮するか、何週間短縮するということは聞かずに聞いたものです。 西山委員がおっしゃるように、小学校と中学校で短縮の期間を

	<p>変えるということはありますけれども、参考資料2にありますように、日数的にいえば小学校でも中学校でも、ほぼ同じ時数が現在不足しているということで、中学校3年生を除けばですね。ですから、日数自体は小中で変える必要はないと考えています。日数を変えないのであれば、時期も変えない方が、より、例えば小学校と中学校で兄弟がいるとか、そういう場合を考えるといいのかなという判断で時期を変えていませんが、日数が同じでも時期を変えるというのは、可能性としてはというか、選択肢としてはあるかと思います。</p>
西山忠男 委員	<p>私は中学校3年生を気にしているんですけども、中学3年で、やはり12日不足していますよね。そのことを考えると、中学校だけは12日間短縮する、小学校は6日間短縮するという案もあり得るんじゃないかという質問です。なぜ、それが考えられなかったんでしょうかという質問です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それは、中学校3年生に関しては、参考資料1にありますけれども、特に授業時数が不足する学年については臨時登校日を設けることができる、1の（6）です。ですから、中学校3年生に関しては、夏休み期間を中3に合わせてみんな短縮するのではなくて、中3だけ余計に臨時登校日を設ける、そういう方向でいこうと。</p>
西山忠男 委員	<p>じゃあ、中3だけ臨時登校日を設けるということですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そうです。</p>
西山忠男 委員	<p>分かりました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>時数が不足する学年ですから、これで見ても、厳密に言えば、小学校5年生、6年生とかも、6日より1日とか2日とか不足していますから、その1日、2日設けるということもあるかもしれませんが、基本的に、中学校3年生だけ他の学年より格段に多いので、それに関しては臨時登校日で対応する、こういう方針です。他に、いかがですか。</p>
西山忠男 委員	<p>もう1つ、いいですか。参考資料4のデータの読み方なんですけれども、これに答えたのは誰なんですか。</p>

大江剛 指導課長

それぞれ学年の先生方から校長が聴取したものを報告していただいている。

西山忠男 委員

そうしますと、これだけ大きな差があるということはちょっと驚きなんですけれども。ある学校では75時間から100時間に相当する、例えば小学校1年で見ますとね。そういう学校が4校あるのに対して、43校では0から25時間にしか相当していない。こんなに大きな幅があるのはどうしてでしょうか。

大江剛 指導課長

委員のおっしゃるとおりで、各学校によって大きな差はございます。何校かの校長にお話をお聞きしましたが、そこあたりの捉え方にどうしても、やっぱり共通でというのが、なかなか定規で測ったようには。難しい部分を聞いてみたら、やっぱり中には実際、子どもたちに対面での授業でしないとなかなか難しかったかなというような捉え方をされている学校もあれば、うちは課題をちゃんとやってきたので、確認できたのでというようなところで。こちら側の伝え方あたりも、きちんとしたもの、制度的なものについては課題があるんですけれども、大方こういった捉え方をされたというところです。

西山忠男 委員

その場合、平均値で議論をされているんですけれども、もしこれがそういうことであれば、やはり一番低い時数で考えるべきではないかという気がするんですけれども、なぜ平均値。平均値で取るということは、時数が満たなかったほうを切り捨てることになりますよね。ですから一番低いところに合わせればプラスで教えられるわけですが、平均値にしてしまうと平均以下の部分が、時数が足りなかった部分がそのまま切り捨てられるという考え方になりますので、それはどうしてそうなるのでしょうか。

大江剛 指導課長

確かに、西山委員がおっしゃるとおり、全体を合わせるとなると、最小値のところに合わせてという考え方もあるのかなと思いますが、グラフを見たところ、大体平均値のところが一番度数的にも多い学校かなということもありましたので。見捨てるというわけじゃないんですけれども、ここあたりは、また、学校のほうでも再度、行事とそれから学習内容の組替え等も含めてしていただければというふうに考えております。

遠藤洋路 教育長

一番やっていないところに合わせると、やっているところは別に、それ以上やる必要はないわけですね。逆にたくさんやっているところから見れば、せっかく一生懸命やったのに、全くそれを認めてもらえないのかということで、それは教員も子どもも非常にモチベーションが下がることは十分に予想されますので、一番低いところに合わせるといのは、私はあまり適当ではないかなというふうに思っています。合理的なのは一番多いところの平均に合わせるといことではないのかなというふうに思って、このようにしているわけですけれども。

やっぱり、一生懸命、こちらもオンラインであれをやってくれ、これをやってください、テレビもやりました。それを全くもうやらなかったことにして、じゃあゼロからやってくださいと言っているのは、ちょっとそれは学校にしては酷な話かなというふうに思います。

西山忠男 委員

私が気にしていますのは、どうしてこんな差があるのかって先ほどから申し上げていることなんですけれども、学校によってそんなに差があるのが非常に不思議に思えるわけですね。多分、どの学校も一生懸命取り組んだと思うんですけれども、先生方の実感としてはこれほどの差が生じてしまった。そこはやはりオンライン授業の我々の取組の今後の反省点ではないかなと。その理由をきちんと解析して、今後に生かすことが大事ではないかなと思います。

遠藤洋路 教育長

分かりました。

実際にオンライン授業の実施状況にばらつきがあったこともありますし、一方で、じゃあ何時間分に相当しますかというカウントの仕方は、各教師によって、例えば、同じ課題を出して同じ時間やってもらって、同じように提出してもらったとしても、それを1時間分とカウントする人もいれば、3時間分とカウントする人も多分いると思うので。その差はあるんでしょうから。実態が違うこともあるし、先ほど指導課長から説明があったように、やったことの評価の基準がそれぞれ違うということがあるんでしょう。もしかすると、出してもらったものの出来が良かったり悪かったりするの、やっぱりある程度その評価にも関係してくるのかもしれないね。

この差がどこから生じているのかというのはしっかりと見極

小屋松徹彦 委員

めてほしいと思いますけれども、じゃあ、どこを基準に考えるかといったら、現状ではやっぱり真ん中というのが妥当かなと私は思いますけれども。

ところで、どうしたほうがいいのかというご意見が欲しい、それであれば。

この不足する時数の計算式というのが前回の会議のときに示されました。それを基にして今回、数値を出されているというふうに思いますけれども、感想を出させていただくと、先ほど西山委員も言われましたとおり、オンライン授業は本当にどれぐらいの成果があったのか、これは先生側の感触と、それから子どもたちの感触と違ったものがある。そこをもう少し精査しないと、本当にこの計算式で出た数字というのが足りるのかなという、率直な意見としては、ちょっとその辺のことを最初に感じました。

ただ、今回はそういうことで、一応、不足する時数というのが出されましたところで、案として3つ出ました。短縮しない、6日間、12日間。この6日間というのは、恐らく、おおむね不足時数としては中間量だと言っていましたから、それに近いところでの案かと思えますけれども、12日間短縮をここに案として入れたのは、最も足りない中学3年生に合わせるどころでの数字と見てよろしいのでしょうか。

遠藤洋路 教育長

はい、それもありますし、前回、どんなもんですかねと感触を伺ったときに、夏休み3週間ぐらいでいいんじゃないですかねというご意見もあったものですから、3週間ぐらいということで、前回出た意見踏まえてこれを入れている。理由づけとしては中3に合わせたということです。

あと、PTAの役員さんに話を聞いたところ、2週間短縮ぐらいじゃないですかねというのが多数派だったというふうに私は伺いましたが、そのようなこともあって案には入れているということです。

苦野一徳 委員

私は、前回、教育学の様々な研究のエビデンスから類推して、夏休みの短縮は必ずしも必要ではないのではないかとご提案をさせていただいたんですけれども、いろいろとご説明もいただいて、このご提出いただいた案は落とすところとしては非常に妥当かなと思っていますので、私としては賛成したいと思っています。

	<p>そのうえでなんですけれども、いろいろな親御さんたちからも聞くのが、やっぱり格差が出てしまうことが非常に心配だ。塾に通わせられているとか、オンラインで授業、塾でのオンラインが受けられるとか、そういう子も一方でいる中で、どんどん学習面で遅れていってしまう子もいる。それは心配だというご意見をよく聞きますので、何日か、あまり勉強させる日とやるとちょっと感じが悪いので、何かわくわく学べるタイムみたいな、わくわく学べる日みたいなのを何日か設けて、来たい子は来られるようにして、それも一斉に授業するというよりは、その子が今、必要な学習を一緒に支えていくような、あるいは支え合っていくような、そういう日が何日かあったりするとより手厚い学習機会の保障になるのではないかなというふうに思いますので、そのあたりも議論したり、検討いただけたらなというふうに思っております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今のは、夏休み期間中に、希望する子どもが学校に来て勉強できる。</p>
苫野一徳 委員	<p>そうですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>授業じゃなくて何かサポートしてもらえる、そういう日があったらいいんじゃないか、そういうご意見ですか。</p>
苫野一徳 委員	<p>はい。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>学習サポートの日みたいなのをつくっておく。はい、分かりました。 他にありますか。</p>
泉薫子 委員	<p>子どもたちの休校期間中、運動なども減っていたので、体力面が非常に心配でしたんですけれども、再開後の児童・生徒の様子というアンケートを見まして、保健室への来室というのがあまり多く、変わらない、または、どちらかというとな少ないという結果が出て、非常に安心したところです。 そういった健康状態であれば、1週間程度の短縮というのは非常に妥当なそういう案ですよ。ちょうどよい計画ではないかな。それと足りないという現場の感覚とも、やはり合っているかなと思うので、この案はいいのかなと思っております。</p>

遠藤洋路 教育長

分かりました。

他には。

小屋松徹彦 委員

いいですか。

こういう考え方ができるのかどうか、ちょっとお伺いしたいんですけども、例えば6日間短縮するとしたときに、これは多分、この1日というのは通常の1日を想定されたんですね。例えばこれ、午前中授業にする。給食終わったらもう終わる。そういったような組み替え方で、例えば6日間で10日間とか12日になるかもしれませんが、午前中授業にするというようなことはできないのか。そうしますと何かいろんなメリットというのが目で見えるんですね。

1つは、子どもたちもやっぱり、8月のこの暑い時期に6時間授業とかフルの授業をまた追加ですというのに対して、どうなんだろうという。モチベーションの問題、それから体力の問題、あと集中力の問題、こういったものを考えたときに、もつのかなというのが1つ。

それからもう1つ、午後からの、要するに給食終わった後の午後からの時間の活用の仕方、今、苫野委員もおっしゃいましたけれども、例えば補習の時間にするとか。どうしても子どもたちで不足の部分を補ってあげたいとか、そういうときに使える時間として使えるんじゃないかということ。

それから、先生たちも多分、午後の時間が空けば、そこで次の授業の準備の時間というのも少し取れるようになるんじゃないかというようなこともあると思うんですね。

それともう1つは、先ほど、PTAの話が出ていましたけれども、私も何人かから聞いた話ですが、休業期間中に何が困ったか。子どもの昼飯を作るのが非常に困ったという、そういったのもありましたので、これが1週間ではなくて10日間とか12日間、そこを何日間延びるかだけですけれども、その期間もまた給食が提供していただけるとなると、多分、保護者の方も随分助かるんじゃないかなという部分もあったりすると思うんですね。

それと、先日、テレビで見えていましたら、今年の夏休みの過ごし方をどうしますかというアンケートを取ったときに、7割強の方は、もう、自宅でゆっくりしておきますという、いわゆる、遠出をしませんという感じなんですね。そこからすると、多少、夏休みの時間が、子どもたちの日数が減ってもそう家庭内のいろ

	<p>んな不都合にもつながらないんじゃないかなという気がします。</p> <p>そういったことを諸々考えると、6日間の日数を午前中授業にしてももう少し日数を延ばす、そういった案というのが考えられないのかなというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p> <p>今、小屋松委員から、午前中、授業にしてもっと日数を増やすならば、給食も出せるし、午後も有効活用できるんじゃないかというご意見がありました。</p> <p>元々、夏休みの予定なので、家庭でご飯を作るのが楽になるからというのは、理由としてはちょっとどうかなという気もしなくはないんですけども。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>それはあくまでも私的なものと考えていただければいいと思うんですけども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今のような案を仮に実施した場合に、学校側でどんな感じになるのかという、もし事務局からお考えがあれば教えてもらえますか。メリット、デメリットあるのかもしれませんが。</p>
大江剛 指導課長	<p>小屋松委員のご意見も、やはり、午前中で給食を食べるという、1日の時間という観点からしても余裕があるようには感じました。ありがとうございます。</p> <p>猛暑の中にでも、学校に来ればエアコンも、もう熊本市内、既に完備されていますので快適な学習ができるのかと思いますが、やはり登校・下校時の暑さからすると、学校に来る日を増やすというのはちょっと心配な部分もあるかなというふうに思いますし、先ほどのグラフからもありますけれども、学校によっては、もう午前中で給食を食べて、例えば6日間短縮となった場合のその6日間、夏休みにする、本来、夏休みだったときに来る日を、給食食べて下校というようなやり方もあるのかな。それはもう学校によりけりということにはなりますけれども、そういうふうに考えてます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>元々6日間で、仮に6時間だとしたら、$6 \times 6 = 36$コマですよ。だから、午前中だけで$4 \times 9 = 36$で、9日間にしたらということなんですけれども。</p>

確かに、単純に登下校する回数が増えるということで、暑いということはあるのかもしれませんが、午前中で帰ると、ちょうど一番暑い時期に下校することになるので、より熱中症のリスクが高まるというか、そういうリスクはあるかもしれません。

一方で、時間的には確かに余裕はできるのかもしれませんが、実際どうですかね。給食を増やさなきゃいけないということで、またちょっと、給食作る人は大変。夏なので非常に辛いというところもあるのかもしれませんが。実際、どのぐらい違うかですけれども。

西山忠男 委員

小屋松委員の案の場合は、先ほど問題になった格差の問題が、やはり、かなり解消されるメリットはあると思うんですね。どうしても夏休みが長くなれば、塾に通う子どもたちは塾で一生命勉強するけれども、ほったらかしの子どもたちは自宅で勉強もしないで遊んでいるということになってしまいがちです。それを防ぐには、小屋松委員の案はいい案だとは思いますが。

思いますが、その案としてもかなり夏休みは短縮されるので、熱中症の心配というのは確かにありますので、私は今、何とも判断し難いなと思ったところです。

小屋松徹彦 委員

登下校の熱中症に関して言わせていただくと、何か関西の小学校だったと思いますが、傘を差して登校しておられましたね。別に日射を防ぐという意味と、それから密にならないように間隔を空けるようにということで、小学校でも全員が傘を差して登下校する。そんなことでもやれる、熱中症対策では、と思えますし、それはあまり大きなことじゃないのかな。

それよりも子どもたちの学びの保障といえますか、さっき言いましたように、午前中4時間で終わるとするのは子どもたちにとっては非常に、午前中で終わりなんだという、それでの授業の集中力も違うんじゃないかなというのと、もう1つ、やっぱり、午後の時間の使い方は、さっきも言いましたように、ここで少し時間を取ってあげたほうがいい子どもたちに対しては、そこで時間を取るということも可能になってくるという意味ではいいんじゃないかなと。

それと、やっぱり、先生も少し午後の時間の余裕があった方が、授業の準備というのは余裕を持ってできるんじゃないかなというふうに思っていますので、それはありじゃないかなというふうに思いました。

遠藤洋路 教育長	先ほど苫野委員は、できるだけ夏休みは長いほうがいいということと、一方で学習サポートがあったほうがいいかという、両方ありますけれども、そういう観点では、苫野委員は今のご意見にどう思われますか。
苫野一徳 委員	今回のコロナが特に明らかにしたのが、もう一律一斉の教育システムということが機能しなくなっちゃったということだと思うんですね。みんなが一律に同じ夏休みにする必要というのは必ずしもないと思うんですね。これから、やはり続くであろうコロナの問題だったりとか、あるいは、そもそも一律一斉の大きな問題がこれまでであったことを考えると、これを機により個に応じていく、個をサポートしていく、しかも緩やかな支え合いの中で個が自分の学びに没頭できる、熱中できる、そういった仕組みに恐らく変えていく、その方が学習権の保障も確実になされる、これも様々な研究で明らかになっていますけれども、ですので、みんなが全く同じ一律の夏休みである必要は恐らくなくて、夏休みは6日ぐらいの短縮でひとまず落とすところとして、個々に応じて、必要に応じてサポートしていくというふうにすれば。全員が全く同じような夏休み短縮ということをする必要がないので。あと、全員集めたほうが、やはり先生方の負担も増えると思うんですね。それよりは、より必要なところにより資源を投入していくという発想でやったほうが、恐らく合理的でもあるのではないかというふうに思います。
遠藤洋路 教育長	なるほど。同じ10日間やるなら、10日間を午前中授業にして午後補習にするよりは、6日間授業やって4日間補習にするほうがいいんじゃないかと、そういうことですか。
苫野一徳 委員	そうですね。
遠藤洋路 教育長	大まかに言うと。
苫野一徳 委員	はい、そうですね。
遠藤洋路 教育長	どっちかといえば。

苦野一徳 委員	はい。
遠藤洋路 教育長	学校としてはどっちが実際いいですか、やってみたら。やるとしたら。
松島孝司 学校教育部長	<p>一般論でしか申し上げられなく、個人的な意見も入るところはご了承いただいたうえで聞きいただければありがたいんですが、6日授業日があるのと、10日授業日があるのでは、学校の教員の意識としては、10日間、半日といえど、授業日ということは、それだけの構えが必要だと思います。</p> <p>それと、確かに午前中ではあるんでしょうけれども、今、苦野委員もおっしゃったように、個別の対応ができる時間が、例えば、午前中に来て午後からという設定もありますが、極論、朝の涼しいうちに個別の短時間を設定できるということも、考えようによっては出てくるかと思えます。</p> <p>どちらも、それぞれ良さがあるかとは思いますが、少なくとも午前中であったとしても授業日は授業日なので、その部分は教職員にとってのずっしり感というのは増えるのは間違いないと思います。何より、登下校の暑さというのは一番心配するところで、それが夏休みのそもそもの設定するところでもあると思いますし、4日間授業日が延びれば、それだけ子どもたちも休まないわけですから、家庭での時間が減るということを考えると、それぞれの良さをしっかり吟味する必要はあるかというふうに認識しています。</p> <p>どちらがいいというのは、一概には、私の口からは言えませんけれども。申し訳ありません。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p> <p>小屋松委員は、午前中だけの方が先生もゆとりを持ってできるんじゃないかというご意見もありましたけれども、どちらかというと授業日が多い方が大変という。</p>
小屋松徹彦 委員	そうですね。
遠藤洋路 教育長	感覚のようですので。それは人によっても違うかもしれませんけれどもね。
小屋松徹彦 委員	夏休みの先生って、何やっているんですか。学校行っていない

	<p>わけじゃないんですよ。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>夏休み中ですよ。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>校内研修だったりとか、それから、自分の2学期に向けた取り組みというようなかたちで、そこはしっかり取り組んでおるところでございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>でもやっぱり、子どもが来るという日があると、その分いろんな心配もあれば、先ほどの登下校の話もあればそれはトラブルもあれば来る日と来ない日とどっちが大変ですかといったら、来る日の方が大変なのは実際のところでしょうね。子どもたちが学校に来る日が増えるということはあまり先生の余裕には繋がらないというふうなのは実態のようですけども。</p> <p>どうですかね。私たちも、終日の勤務が6日あるのと半日の勤務が10日あるのとで、どっちがいいかとやったら。人によって違うのかもしれませんが。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>いいですか。</p> <p>子どもたちの受ける授業の質ということから考えると、6時間みっちりあって次の日もみっちりあってというのと、先生も大変じゃないかな、むしろ4時間やって、午後からは次の日の授業の準備やった方が、私は、先生逆に楽になるんじゃないかなと思っただんですけどもね、日数の問題よりも。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そういう面は確かにあるんですかね。日頃からずっとそうだったら、それはその方がいいかもしれませんね。この1週間がどうですかということじゃなくて、普段授業の後に翌日の授業の準備をする時間が年間を通じて教員にあれば、それはその方が授業の質が高くなることは間違いないでしょう。</p> <p>ただ、この1週間に限っていえば、そこまでの効果というよりは、むしろ、子どもがたくさん来る日が多いほうが大変というのはあるのかもしれませんが。</p>
苫野一徳 委員	<p>全国的なデータがあるんですけども、夏休み期間でさえ、小学校、中学校の先生は残業を結構しているんですよ。既にそういった状態の中で子どもたちが来るとなると、さらに忙しくなるというのは間違いないと思いますので、できることなら夏休みは</p>

	<p>ある程度確保したほうがいいのではないかなと思います。</p> <p>先生の働き方改革の面で言っても、ここでいろんな、今、自治体の先生方は、もう夏休み9日とか10日とかになっていますので、そうすると、もう先生たち悲鳴上げているんですよ。私のところに毎日のように悲鳴が届いているんですけども。しかも、消毒も全部やらなきゃいけないとか、フェイスシールドやっている学校もあるとか、何かもう決まりが多過ぎる。登校中の決まりも多いし、もう何かから何まで全部事細かに決まっていて、そんなの守っていたら、はっきり言って何もできないよということでその理不尽に怒っていらっしゃる方もたくさんいらっしゃるんですけども。</p> <p>そういうことを考えるとある程度、先生方にこの期間にしっかりと時間的余裕を確保するというのはとても大事なことなんじゃないかなとは思うんですけどもね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それは、今おっしゃったのは、つまり授業日を増やすんじゃなくて、休業日を増やしたほうがいいんじゃないかということですか。</p>
苫野一徳 委員	<p>そうですね。次に、これからやはり学校の在り方とか授業の在り方をかなり見直していく必要もあると思いますので、そういったことを考える時間を校内でじっくり取るというのが大事ではないかな。校内、意見もたくさん得られると思いますので、そういうときに、これからの学校をどうするかっていうことをじっくり考えるという時間が必要ではないかなとは思っています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p>
西山忠男 委員	<p>よろしいですか。</p> <p>私はやっぱり、議論の主体は子どもたちの立場ということではないかと思うんですよね。教員はあくまでも職業としてやっているわけですから、こういう非常時にはそれなりの、やっぱり対応をしてもらわないといけないと思いますよね。確かに悲鳴上げているのは、よく分かります。非常に大変だというのはよく分かりますけれども、そのことと、この非常事態における子どもたちのケアの問題って、やっぱり別の問題なので、今回に限っては小屋松委員のような意見も当然あり得るし、それは大きなメリットがあることではないかなと思います。</p>

遠藤洋路 教育長	分かりました。
苫野一徳 委員	それはもう本当におっしゃるとおりで大前提なんですけれども、いずれにせよ何が一番効果が高いかということを考えたときに、恐らく個別に対応できる時間を取る、一律でというよりは個別に対応できる時間的余裕を設けたほうが恐らく効果が高いのではないかという、そういう意見でございます。
遠藤洋路 教育長	先ほど学校教育部長からもあったかと思いますが、個別に対応する時間も、4時間授業やった後に個別に対応する時間があるのか、朝から個別に対応する時間があるのかといったら、朝からの方が子どもにとってもいいんじゃないかという、そんな趣旨だったかなと思うので、そういう意味では確かに小屋松委員のおっしゃるのも一理あるなと思いますが、個別の学習サポートが、みんな午前中授業やって給食食べた後になっちゃうと、疲れている子はもっと疲れちゃうということも、もしかしたらあるかもしれないですね。その辺はちょっと、今回はいろんな意見を総合すると、午前中授業で、午後学習サポートというよりは、授業は授業でまとめて、サポートの日はサポートの日でまとめる方が、子どもにとっても教員にとってもいいんじゃないかというのが大方の意見なのかなというふうには思いましたけれども、どうですか、小屋松委員。
小屋松徹彦 委員	ちょっと納得いきませんが。
遠藤洋路 教育長	無理やり同意を求めてもあれなんですけれども。
小屋松徹彦 委員	<p>いや、というよりも午前中で終わって給食食べて帰る、その後に補習をするんじゃないですよ。必要である、やるということだけのことであって、基本的にはもうそれで帰るということなんです。</p> <p>ですから話し出すときりがないんでしょうけれども、いわゆる働き方を考えていくうえでは、こういうところできちんとそういう時間を取っていかないと、またこれ、いつものとおりの繰り返しをしていたら学校の先生たちは同じパターンにはまってしまうような気がするわけですね。</p> <p>ではなくて、ここで一旦午前中で切りました、午後の時間がで</p>

	<p>きました。ここで授業の準備に充てる時間ができるということが体感できれば、先生たちは、今後そういった時間もどんどんつくっていかないといけないでしょうと。そういうことでの先生の意識改革も実はあるんじゃないかなというふうに思うんですね。ですから、そういうことのきっかけにこの期間を、今回のことをきっかけにしてもらいたいなという、そういうちょっと希望もあります。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。なるほど、おっしゃっていること、趣旨が分かりました。だからそれは多分、今回の夏休みどうしますかという話よりは、1年通じてそういう時間をどうつくるかということが、まず基本的に大事なことであつて。小屋松委員がおっしゃったのも確かにそうだなと思う一方で、私はむしろこの1週間、10日だけそれができて、結局、他の時期にできなかつたら、あまり働き方改革にはなっていないのかなというふうに思うので、年間通じて、もしかすると授業の日数を減らして休みを増やす方向よりも、全部通じてできるだけ余裕を持った日程を毎日組むという考え方のほうがいい場合もあるのかもしれないので。ちょっと、だから今回の夏休みの日数をどうしますかということとは別に、年間通じた働き方でそういう時間をどうやって生み出すかということでちょっと検討したほうがいいのかと思ったんですけども。</p> <p>そういうことで、これをきっかけにということであれば、確かにこの1週間、10日で試してみるということはあるかもしれないですけども、それはちょっと今後も考えたいと思います。</p> <p>でも、これってそもそも、例えば夏休み前とかで午前中授業だったりするんですか。そういうことないの。私、子どもの頃は確かに、何かそんなことがあったような気がするんですけども、今、どうなんですかね。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>実際、事務整理として通常取っていると思うんですけども、今回に関しては、そこはやらないというような状況だと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>やらないということは、もう、フルに授業すると。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>授業時数を確保というような意味合いで、そちらの方が中心になってくるかと思っています。</p>

	<p>それとまた通知表の在り方とか、そこら辺のところも関わってくるんだろうとは思いますが。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>1学期の終わりの通知表は、今回、要らないですもんね。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>そういうふうなことで進めておりますので、ですから授業中心の学期末というふうなかたちになるかと思えます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>なるほど。そもそも通知表要らないから、その事務整理は要らない。通知表のためにやっているわけじゃないのかもしれないけれども。</p> <p>期末試験とか、その辺はどうなんですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>それはもう、前の時期にやると思うんです。ぎりぎりではないと思えます。今まで中間と期末というふうにやっているところだと思えますけれども、中学校の試験に関しては1回というふうなかたちになっているんだろうと思えます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>この1学期は、中学校はいつ試験するんですか。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>そこはどうなんでしょう。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>学校によって違うわけですかね。</p>
塩津昭弘 教育次長	<p>はい。</p>
松島孝司 学校教育部長	<p>恐らく、学校によって計画が異なっておりますのでそこは一概には言えませんが、少なくとも今回6月からのスタートになっておりますので、1学期の間に2回のテストというのはあり得ないと思っております。例えば地震のときもそうだったんですが、あのときは1学期の通知表をあえて2学期の頭にお渡しするような学校も出てまいりました。というのが7月いっぱいまで、授業をさせていただいて、そこで評価をしたものを改めて渡すということでした。今回もぎりぎりまでは授業をやらないと、授業の成果や学習の状況を把握するための定期テストですので、授業をやらない段階で評価だけしても意味がありませんので、恐らく、各学校1回というのがおおむねじゃないかなというふうには理解しております。</p>

遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p> <p>せっかく小屋松委員に6日なり10日なりの使い方を提起していただいたのでちょっと伺いますけれども、じゃあ、仮に6日間なり、12日間でもいいんですけれども、夏休み短縮して授業日になったら、その6日間は学校は、実際何をするんですかね。何をするというのは変なんですけれども、どういうふうにするんですかね。そこは何か、教育委員会としての考えがあれば教えてください、事務局。普通に、要するに7月21日までの授業の延長をそのまま31日までやってくださいっていう話になるんですか。</p>
松島孝司 学校教育部長	<p>基本的には、そのような方向で考えております。いわゆる、通常の授業の延長として実施していただくというのが前提というふうには考えています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>終業式というのは、31日にやるんですか。</p>
松島孝司 学校教育部長	<p>もし実施するのであれば、恐らく、そのようなかたちになるのではないかとこのように想定しております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。</p> <p>いろいろその教科の内容で、例えば今、合唱とか合奏とか、あと調理実習とか、何か密になる活動は後にしてくださいみたいな話があるじゃないですか。そういうのはいつやるんですか。私、ちょっと思ったんですけど、そういうのは来年度に回せば、その分、時数が減るんじゃないのかなと思ったんですけども、そこはいかがですか。</p>
大江剛 指導課長	<p>最初は、ガイドラインには、そういう合唱、それから家庭科の調理、あるいは理科の実験等につきましては、当分の間、控えてくださいというような通知を出しました。</p> <p>その後、市の感染リスクも1になりましたし、文科省からの通知等も踏まえまして、十分感染拡大防止の措置を取っていただいて、少しずつ学校のほうでやれるところはやってくださいというところの新しいガイドラインを先日お示ししたところです。</p> <p>ただ急にはなかなか、そこはすぐやれるかどうかというのは、</p>

	<p>学校も様子を見ながらやるのではないかなというふうに考えます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>文科省の通知には、そういうのはやっぱり時期を考えてくれと書いてあると思うんですね。だから、今すぐやるというよりは、どちらかというともう少し安全・安心な状況になってからやるということが基本だというふうには思うんですけども。それもどこかの段階で、今年度中に全部やるということですか。</p>
大江剛 指導課長	<p>感染リスクの、熊本市の感染リスクは1ということでございますけれども、ここらあたりについては状況をまた見ながら、安心してできる環境というのはどうなのかというのは、その詳細を示しながら、その都度学校のほうにもお示ししていかなければならないかなという感じです。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>私は、個人的な案としては、そういう密になる活動って、多分40～50コマぐらいあるので、それを来年度に回せば、今年度は夏休み短縮しなくても十分入るなというふうに思ったんですけども、皆さん、1週間ぐらいがいいということであれば、1週間ぐらいで私は全く構わないので、持論を推すことは特にしません。</p> <p>他にありますか。出川委員はどうですか。</p>
出川聖尚子 委員	<p>学校が6月1日から再開しましたので、少し夏休みを遅らせて始めるというのは、やっぱり子どもにとっていいのではないかなと思っています。クラスに慣れたり、友達に慣れたりというところで、学校生活に慣れるという意味で、いいかなと思いました。</p> <p>2つ、質問なんですけれども、6日間で不足する日数がある学年は、その足りない分というのは特別補う必要はないのでしょうか。例えば、小学校6年生のときは7.9時間足りないということですが、6日間ということは、1.9、これは平均ですけども、これはどこかで不足分を何かするということがないのかということと、あとオンライン授業での、先ほどから平均値が出されていますが、少ないところと多いところとありますが、少ないところはそれなりの授業が進んでいないということなので、その分も同じように6日間で補足するというか、特段、中3以外は臨時登校日を設けないということなのかと思ったので、その辺はどうする予定になっているのかなというのが気になりました。</p>

遠藤洋路 教育長	今の点は、いいですか。
大江剛 指導課長	<p>委員ご指摘のとおり、一応、6日という線を出ささせていただいておりますが、その不足する日数の導き方の中でも、6年生であれば、およそ2日ほどは足りないというような状況でございます。各学校のほう、捉え方というところにも差が出ておりますので、一概にこちらのほうも正確なところはどこまで申し上げられるのかというのは非常に、確かなところはないところもありますけれども、そこは各学校の行事等も含めて、それから授業の中身の見直し等も含めながら、こちらのほうで、例えば6日というふうに決めていただければ、そこでまた各学校も工夫をされるんじゃないかなというふうに考えております。</p> <p>あと不足する学年については、臨時登校日、設けることはできるというようなことで、一番不足するのは、当然、中学3年生でございますけれども、それ以外の学年でもどうなのかというようなところも含めて、決めていただきますと、学校のほうも取り組みやすいのかなというふうに考えております。</p>
出川聖尚子 委員	分かりました。
遠藤洋路 教育長	<p>もともと、学校によっても普段の年でも授業時数というのは多少違うんですね。予備時数も違うので、ここで1日足りないからって1日授業しなきゃいけないという、そういう厳密な対応をしているわけではないので。ある程度それぞれの学校の1年間の計画の中でやってもらえばいいので、1日、2日であれば、十分そこは対応できるんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>ただ、やっぱり40時間、45時間、オンラインやりましたよというのを前提に、今考えていますけれども、いやちょっと、うちの学校は本当に10時間ぐらいしかやっていないんだけど、どうしようっていうところがないとも限らないわけですが、そこはどうしますか。</p>
松島孝司 学校教育部長	そこに関しましては、先ほど指導課長からもありましたように、各学校でこの枠の中でどう対応していただくかということになってくるんですが、1つは行事の精選をより進めていただくのが大きく1つあるかと思います。もう1つは、文科省からの通知にも示してあって、委員会からも出してありますが、例えば基本

	<p>方針には時数を確保するために7時間授業は行わないというふうに書いておりますが、学習内容の保障のためであれば、必要な学校は、例えば短縮授業にして7時間をやるとか、午前中に5時間の授業を実施するというようなこともこれまでも行われておりますので、そのような個別の対応で、学習内容の保障は各学校で進めていくものというふうに認識しております。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>学校によっては、うちの学校はちょっとどうしてもあれだから、7時間授業やりますという学校があってもいいということですか。</p>
<p>松島孝司 学校教育部長</p>	<p>時数を確保するためということではなくて、どうしても必要だという場合には、それも学習の中身ということを出てくる可能性もあります。ただ、時間をかけたら学習内容が保障できるということでもございませんので、そのあたりも柔軟に各学校で対応はできていくのかなと考えておるところでございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>時数を確保するためと見分けはつかないんじゃないの、外見上は。</p>
<p>松島孝司 学校教育部長</p>	<p>はい。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>でも教科書を終わっていないから、ここだけ終わらせたいですという、時数との関係、そういうことですか。</p>
<p>松島孝司 学校教育部長</p>	<p>そういうことですね。単純に時間だけで、機械的に7時間授業しますということではないということで、各学校に伝えたいと思っています。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>さっき言ったんですけれども、やっぱり来年に回すというのをもっと活用したらいいんじゃないかと思うんですよ、私。それって各学校の判断じゃ無理なんですよ、多分。教育委員会が言ってあげないと。そこはいかがですか。</p>
<p>松島孝司 学校教育部長</p>	<p>そのあたりにつきましては、今後またしっかり検討する必要があるかと思えます。文部科学省からの通知に関しましても、学年内に指導が終えられるように努めても、なお分散登校や臨時休業の長期化などで指導を終えることが難しい場合には、特例的な対</p>

		<p>応として次学年にと書いてありますので、やはり今年度内に終了していただくというのが原則というふうな認識ではございません。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>だから、その特例をどんどん活用しましょうという話を今、しているわけですがけれども。</p>
松島孝司	学校教育部長	<p>そのあたりはまた、今後の検討課題かなというふうには思います。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>だから、今回6日間、夏休みを削って授業を増やしますよね。あと何十コマ分かは来年度やってもいいですよと言ってあげれば、もっと余裕ができるんじゃないですか。</p>
松島孝司	学校教育部長	<p>そうですね。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>あんまり、何十コマも来年に回したら来年大変ですがけれども、例えば20コマ分ぐらいを来年度やってもいいですよというふうにすれば、今言ったようにオンライン授業があんまりできなかった学校もそれで対応できるし、普段の、そうじゃない学校ももう少し教育課程にゆとりができるんじゃないですか。それは多分、文科省が特例的にと言っている以上、各学校でやるのは非常に難しいから、教育委員会で具体的にこういう活動は来年やってもいいですよ、あるいはこれとこれとこれとこれは、もう何コマ分は来年度やってもいいですよというふうにしたらどうですか。例えば総合的な学習とかでもいいし。例えばですよ。あるいは特別活動の何でもいいですがけれども、総合を別にびっちり70時間、70時間を今年やらなくても、来年でいいんじゃない、少しは。例えば、50コマにして、来年度20コマやってもいいですよとすれば、それだけで20コマ分出てくるわけですよ。それぐらいしてあげたらいいんじゃないかと思えますけれども。</p>
松島孝司	学校教育部長	<p>はい、そこは、ちょっと指導課のほうにもしっかり検討していただいているとは。基本的にはそういうかたちも検討していきたいというふうに考えます。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>それはでも、各学校に任せたら絶対できないので、教育委員会がちゃんとやってあげなきゃ駄目だと思います。</p>

松島孝司 学校教育部長	分かりました。
西山忠男 委員	質問、よろしいですか。 臨時登校日は、学校の判断で設けることができるんですか。
大江剛 指導課長	基本的には各学校のほうで設けることはできるというふうに考えておりますが、その期間等についてはある程度お示したほうがいいかなとは思っています。
西山忠男 委員	いや、先ほどの議論の中で、オンライン授業の成果があまり出ていない学校がある、どうするんだという議論になったときに、そういう学校は、その学校の判断で、臨時登校日を設けることができるんですかという質問です。
大江剛 指導課長	はい、設けることができます。
西山忠男 委員	できますか。
大江剛 指導課長	はい。
西山忠男 委員	それは、中3以外の学年でもできるということですね。
大江剛 指導課長	基本的には中学3年生を考えていたのですけれども、他の学年については議論していただければと思います。
遠藤洋路 教育長	今の質問に対する答えは、臨時登校日を設けることができるのはどこにも書いていないので、教育委員会が臨時登校日を設けることができますよというふうに学校に通知するということです。だから、普通は学校管理規則に休業日と書いてあるので休業日なんですよね。ただし、中学3年生については何日まで臨時登校日を設けることができるのか、休校中も、ただし3日間までは臨時登校日を設けることができますと我々が学校に通知したわけですね。
西山忠男 委員	ということは。

令和2年（2020年）第6回臨時教育委員会会議録【6月15日（月）】

遠藤洋路 教育長	だからおっしゃるように、中学校3年生だけじゃなくて、他の学年についても各学校で何日間までは臨時登校日を設けていいですよと、教育委員会が学校に通知をすれば、それで設けることができる。
西山忠男 委員	この案にはそのところが、あまりはっきり書いていないのでお尋ねしたんですけれども。
遠藤洋路 教育長	特に、授業時数が不足する学年についてのみ臨時登校日を設けることを考えていて、他の学年、他の学校ごとに変えるということは、今のところ考えていない。
西山忠男 委員	学校ごとには判断しないということですか。
遠藤洋路 教育長	はい。というのが今の案です。 ただ、足りない学校は臨時登校日設けていいようにしてもいいんじゃないですかという意見はあると思います。そういう案もあり得ると思います。そうすると、多分、我も我もと、みんな登校日にしたくなるかもしれませんがね。実質的に夏休みが夏休みじゃなくなっちゃうかもしれないですけれども。
苫野一徳 委員	質問、よろしいでしょうか。 それでいうと、先ほど私が提案しましたサポート日といいますか、それは臨時登校日とはまた別物ですよ。全員ではないので。
遠藤洋路 教育長	そうですね。
苫野一徳 委員	その扱いを、そうするとそういった日を設けることができるということも、やはり書き込む必要はあるんでしょうか。
遠藤洋路 教育長	言ってあげたほうがいいんじゃないですか。できないことはないですけれども、個別に補習とか、学びノート教室とか、例えば今もやっていますし、それはそれぞれ授業日でなく課業日でなければ各学校で設けることは、生徒に対して個別指導することはできるんでしょうけれども。
苫野一徳 委員	一応、書いて。

遠藤洋路 教育長	やりにくいんじゃないのかなという気はしますけれどもね。
苦野一徳 委員	<p>なるほど。分かりました。</p> <p>あと2つ。</p> <p>サポート日みたいなので、子どもたちが必ずしも来なくても、それこそオンラインでやる日を、あるいはやる時間とかを決めるということも可能ですよね、考えようによっては。そうすると、熱中症の心配とかもしなくてよかったりもするので、その辺も柔軟に、多分考えられるのではないかな。オンライン登校みたいな、そういうのを設けるのも1つですかね。</p> <p>それと、あともう1つ、先ほど遠藤教育長がおっしゃっていたことで思い起こされたんですが、記憶が定かか分からないんですが、文科省の通知で教科書の精選というのでもかなりなされていますよね。そのことも考え、今どれくらい進んでいるのかも伺いたいですけれども、教科書の精選も併せると、結構、また時数が確保できるというか、そういったこともあると思うんですが、今どんな感じで進んでいるのかをご存じであれば教えていただきたいと思うんですが。</p>
遠藤洋路 教育長	いいですか。
大江剛 指導課長	<p>先日、中3と小6につきましては、教科書会社と連携して文科省のほうから通知はされているところがございますけれども、どこまで進んでいるかということに関しましては、申し訳ありませんけれども、まだ正確にはこちら側も把握しておりませんが、基本的にはやはり、児童・生徒が学校に来て、いろいろ対面で話し合い活動をしたりとか、そういった学び合いのところはどうしても家庭ではできないので、そういったところは学校でやってください、それ以外の定着を図るような部分については家庭でもいいですよというのは、大まかに言えばそういった通知だったかと思えますので、そこらあたりも含めながら、学校のほうでも先ほど申し上げたような1年間の学習内容の見直しをされるというふうに捉えております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>今の苦野委員のご意見に関しては、6月5日に文科省からそういう通知が出ていますね。</p> <p>小6と中3に関しては、今、指導課長からもあったように、例えば小学校6年生の社会でいえば、児童が議論などを通して互い</p>

の考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることなどは学校の授業で取り扱うことが望ましい。上記の学習を追求する活動の中で必要な情報を収集し読み取る活動や、学習したことを基に学習問題に対する自分の考えをまとめたり、社会に生かそうとしたりする活動については、事前に十分に指導したうえで授業以外の場で取り扱うことが考えられる。

こんな感じで、要するに1人でできることは1人で、授業以外でやってもらってもいいですよ、でも授業で、みんなでやることに関しては授業でやったほうがいいですよと、どの教科も同じようなことが書いてあるだけなんですよ。

それを徹底的にやれば、かなり、2～3割は授業時数を減らすことはできるんですけども、そこはあんまり家庭に任せるのもいかなものかなという気はするので。やろうと思えば、夏休みを6日とか、そういうレベルではなく、ぎゅっと減らすことはできますけれども、そこまでするのはちょっとなという気はしますよね。

ただ考え方としては、本当に何時間足りないから何日授業しましょうではなくて、その授業自体の時数・日数を減らすということは、考え方としては十分あり得る。

今いくつかご意見出ていた中でも、やっぱり今回、基本的な考え方として、そもそも夏休みを短縮するということが自体が普段やらないことですから、じゃあ、そのときの臨時登校日はどうするんですかとか、学習サポートの日はどうするんですかって、本来は、別の一から十まで教育委員会が指図しなくてもいいとは思いますが、今回に限っては全部言ってあげないと学校はよく分かんないだろうなというふうに思うので、極力、一から十まで学校にこれはこうしてください、あれはああしてください、これはこうしてもいいですよ、そうじゃなくてもいいですよというところは、明確に示してあげた方が学校は対応しやすいんじゃないのかな。基本的な考え方ですけどもね。

西山忠男 委員

よろしいですか。全くそのとおりだと思うんですけども、私は臨時登校日に関しては、学校の実態に合わせて、学校で決めてよいとしてあげたほうが学校は対応しやすいんだと思います。それも中3に限らず、2日ぐらい足りない学年もあるわけですから、それを行事を切り詰めてやればいいというご意見もありましたけれども、それができないという学校もあるかもしれないので、それは学校に判断してもらおう。

遠藤洋路 教育長	それも学校で定めていいなら、学校で定めていいですよということを教育委員会がやっぱり言ってあげる必要があるし。
西山忠男 委員	ええ、そうです。
遠藤洋路 教育長	例えば3日まで、何日までですよとか、そういうこともやっぱり言ってあげる必要があるんじゃないのかなと思うんですけども。だから、それは学校に任せるとするのは十分あっていいと思います。 ただ、2日、3日であれば本当、先ほども言いましたけれども、別にあえてここでやらなくても、その後の2学期、3学期の中で十分できますから、そこはあまりどうでしょう。無理しなくてもいいのかなという気はしますけれどもね。実際、どうですか。
塩津昭弘 教育次長	おっしゃるとおりだと思います。6日なら6日というようなことで分かると、あとどれぐらいかというようなことは学校として分かると思いますので、それは2学期、3学期においてどういうふうな取り組みをするのか、また、カリキュラム・マネジメントとあって、有機的に結合させて、それで時間を生み出すというようなこともできると思いますので、2学期、3学期に、2日、3日でしたら、十分取り返しは可能だというふうに考えております。
遠藤洋路 教育長	じゃあ、「夏休み6日ですよ。ただ、3日までは登校日つくっていいですよ」というよりは、もう、「夏休み6日です。以上」のほうがむしろ分かりやすいということですか。計画を立てやすいということですか。
塩津昭弘 教育次長	学校としてはそうだと思います。
遠藤洋路 教育長	だそうですね、どうですか。
西山忠男 委員	でも、中3は足りないでしょう。
塩津昭弘 教育次長	中3については別です。

遠藤洋路 教育長	中3はもともと登校日をつくる予定です。
西山忠男 委員	はい、分かりました。
遠藤洋路 教育長	他に。泉委員はどうですか。
泉薫子 委員	<p>本来休むべき期間であるというふうには考えます。7月の後半は、特に猛暑日が、例年、猛暑日がもう連日続く期間ですので、なるべく夏休みの間、休ませてあげたいなとは思いますが、いろいろな状況を見て6日間の短縮は妥当なところだということなんですけれども、くれぐれも熱中症に対する対策というのをしっかり、この期間も含めてですけれども、併せてそれも一緒に伝えていただけたらなと思います。</p> <p>3年生の臨時登校日なども、いつ頃入るのが分からないんですけれども、期間によっては非常に消耗する期間もありますので、そこらあたりの配慮もどんなふうにするかということも含めて通達していただければなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>ここまでの議論で、おおむね6日間夏休み短縮ということに関しては、小屋松委員からは、いやいや、10日、午前中だけにしたらいいのではないかというご意見もありましたが、おおむね合意できているのかなというふうに思いますが。</p> <p>じゃあ、6日間短縮ということにしたときに、前半にしますか、後半にしますか、分けますかというのが、この資料の5ページですか。ここにカレンダーとしてありますが、その前、それですね。</p> <p>事務局の案としては、前半を短縮する。これは学校からの意見で、前半を短縮するという意見が多かったので、これにしているわけなんですけれども、日程については、特に。7月後半のほうが8月後半より暑いという、気温でいえばですよ、可能性はありますけれども、年によっても違うでしょうけれども。よろしいですか、これで。</p> <p>今、確かに、8月後半にすると、結局いつもどおり夏休みが始まると、もうあと1か月ぐらいしか1学期ないので、ちょっと慌ただしいかなということなので、どちらかという前半が授業があったほうがいいのかもかもしれませんね。</p> <p>では、大体議論は、ご意見は出尽くしましたか。よろしいですか。</p>

	<p>あと高校、それから幼稚園、特別支援学校。今、小中学校の話 しかしませんでした。それに関して。</p>
大江剛 指導課長	<p>1点、確認をさせていただいてよろしいでしょうか。 小中学校につきましては、6日間、7月、これでいきますと案 ②のほうでよろしかったですか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>はい。</p>
大江剛 指導課長	<p>併せて、中学3年生の登校日を設けることができるということ につきましては、先ほど、泉委員のほうからもございましたけれ ども、期間、日数ですとか、それから時期的なところも、ちょっ とこちらでお示しいただくとありがたいと思っております。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>中3は12日足りないと言っているわけですから、自然に考え れば、あと6日間ということなのかもしれませんけれども、そこ は苫野委員が異論あるかもしれません。</p>
苫野一徳 委員	<p>いえ、大丈夫です。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>いいですか。</p>
大江剛 指導課長	<p>じゃあ、6日までに。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>6日まで臨時登校日を設けることができるという。</p>
大江剛 指導課長	<p>期間についても、それぞれの学校の判断でよろしいでしょ うか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>もちろん。6日やらなくていいというところはやらなくていい んじゃないか。</p>
大江剛 指導課長	<p>あと時期については、もう学校の判断でということよろしい でしょうか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>時期。</p>

令和2年（2020年）第6回臨時教育委員会会議録【6月15日（月）】

大江剛 指導課長	例えば、8月の前半にするのか。
遠藤洋路 教育長	臨時登校日ですか。
大江剛 指導課長	はい。8月の後半にするのか。
遠藤洋路 教育長	それはいいんじゃないですかね、学校で決めれば。
大江剛 指導課長	分かりました。
遠藤洋路 教育長	あえてお盆にしますというところはないでしょう。
大江剛 指導課長	はい。
遠藤洋路 教育長	前半にすると、でもぶっ通しになるわけでしょ。
大江剛 指導課長	そうです。
遠藤洋路 教育長	あんまりしない。普通に考えたら、後半にするんじゃないですか
泉薫子 委員	後半の方が現実的ではないですかね。
大江剛 指導課長	後半の方がですね。
泉薫子 委員	はい。気温からいってもですね。
遠藤洋路 教育長	いや、そこは示してあげてもいいけれども。 みんな、そこはほっといてもそうするような気がしますがね。
大江剛 指導課長	分かりました。では8月の後半ということでは、学校のほうにはお示ししたいと思います。
遠藤洋路 教育長	示してもいいし、示さなくても、みんな後半にするんじゃないですかということです。

令和2年（2020年）第6回臨時教育委員会会議録【6月15日（月）】

大江剛 指導課長	なるほど。6日までということ。
遠藤洋路 教育長	はい、6日間まで臨時登校日を設けることができる。
大江剛 指導課長	わかりました。
遠藤洋路 教育長	臨時登校日は、給食はないんですよね。
大江剛 指導課長	臨時登校日はもう3年生だけになりますので、給食は考えておりませんでした。
遠藤洋路 教育長	つまり、午前中だけということか。
大江剛 指導課長	午前中だけです。
遠藤洋路 教育長	そうすると、これで12日足りないから6日間といっても、それはフルの6コマの6日間分だから、本当はこれじゃ足りないのか。
大江剛 指導課長	若干足りなくはなりますが、そこは学校の工夫をお願いしたいと考えます。
遠藤洋路 教育長	いいですか。
大江剛 指導課長	2学期以降で、各学校でちょっと。日数はもうあまり延ばすということは考えておりません。
遠藤洋路 教育長	そうですか。
苫野一徳 委員	先ほど申し上げた個別サポートデーといいますか、それは何か盛り込むべきなのか。どうなのでしょう。
遠藤洋路 教育長	それも、せっかくですから、ご意見出たんですから、皆さん、異論がなければ、盛り込みましょうか。
苫野一徳 委員	何かあった方がいいようには思うんですけども。
遠藤洋路 教育長	じゃあ、授業日、登校日ではなくて、個別サポートの日をどう

	<p>しますか。どのぐらいか、つくってもいいですよということですか。</p>
苦野一徳 委員	<p>そうですね。希望者。面談とか、多分どこかでやると思うんですよね。お互いに合意をして、1日ぐらい行きたいとか、保護者の方とかも、ちょっと心配だから1日ぐらい面倒見てほしいとか、そういうこともあると思うので、お互い合意した場合に関しては、ここにおいでよと声をかけることができるとか。必ずしもそうじゃなくても、来たい人はもうそこに来るとか、何かできるような時間があるといいなと思うんですよね。何かそれを、そういうことができるというのが。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>どのぐらい。</p>
苦野一徳 委員	<p>どんなふうなんでしょうかね。</p>
大江剛 指導課長	<p>今、苦野委員がおっしゃったことにつきましては、これはもうアンケート等を調査したわけでありませんので言えませんが、大体夏休みに、休業期間中にはちょっと支援が必要なお子さんについては、それぞれ夏休み前に、入る時期ですとか休み中、なかなか休み中に、今度子どもたちに来なさいと言うのもなかなか難しいところで、休みになっても行かないといけないのかなという子どもたちの状況も踏まえて、それは適宜、放課後等も利用して各担任のほうでやるし、いろいろ課題等も個別にやることはできるのかなと思いますので、一概にこの日がサポート日ですよというのを示すのは、ある意味ちょっと難しいようなことも考え、それでそういったことをぜひお願いしますというようなことは言いますが、何日間とか、何日、この日とこの日というようなところ、こちらのほうから指定するのはちょっと難しいかなと考えます。そこも各学校に、実態に応じてサポートのほうをよろしくお願いしますというのは、当然お願いをしたいというふうに考えています。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>この日とこの日と指定する必要はないんですけれども、何かそれを何日間までとか言わないと、もうずっとやるのかと思われるような気がするんですよね、むしろ。夏休み中もずっと個別にサポートしなきゃいけないんですねと受け取る人もいると思うんですよ、学校で。あるいは、してくれるんですねっていうことで、</p>

	<p>希望される方もいると思うんですよ。だからそこは、私はむしろ、ある程度ちゃんと限度を決めておかないと、学校がもっと大変になると思いますよ。</p>
苫野一徳 委員	<p>例えば、中3に合わせて、8月6日までの間は状況に応じて個別サポートデーを設けることができるというようなかたちにしてというのはどうでしょうか。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>中3も8月6日までとするわけじゃないですけどもね。</p>
苫野一徳 委員	<p>そうですね。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>6日間ですよ。</p>
西山忠男 委員	<p>個別サポートデーの趣旨をきちんと説明してあげないと、そういうのをやっていいですよと言うと、もう学校現場困るんじゃないか。何、個別サポートデーって、何するのということにならないでしょうかね。それがちょっと心配なんですけれども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>何をするか。個別サポートなんですけれどもね。</p>
小屋松徹彦 委員	<p>1つ、よろしいですか。 資料3で、夏休みの表がありますね。これは結局、部活に入ってから、学校が始まったの1週間ですよ、主に。ということは、半日来ていないじゃないですか。そこで皆、多分元気だったと思うんですが、それが1日授業に変わってからはどうなるのってことはこれじゃ見えてこないんで、そこを私はちょっと心配する部分なんです。</p> <p>さっき言いました午前中授業というのは、そういうのも含めてもう一般授業が始まって、8月に入ったときに、そこでもまだこの1週間そういう日が続くのかなというよりも、そこでは4時間だよとしてやった方が子どもたちもちょっとまた気持ちの入れ替えができるんじゃないかなって思いがあって言ったのと、それからさっき苫野委員がおっしゃった部分も、例えば出ている日の午後であれば無理なく日にちの設定はできるというかということなのでそういった面でも合理的じゃないかなというふうに思うんですけどもね。ちょっとこだわり過ぎですけどもそういうふうに思います。その時間を利用すれば、そういったフォロー</p>

遠藤洋路 教育長	もできるんじゃないかというふうには思っているんですね。 分かりました。
苫野一徳 委員	基本的な発想として、最近、よく言っているんですが、限られた教育資源ですので、大事なことはみんな同じの均等配分ではなくて、困ったところにより厚くの適正配分という思想が恐らくふさわしいというふうを考えているんですけども、そんなような適正配分の思想でいくと、やはりもう進んじゃって大丈夫という子もたくさんいますよね。その場合はやっぱり困っているところにできるだけリソースを割くというのが恐らく発想として大事だと思いますので、その場合、例えば3日とか4日の個別サポートデーを午前中だけつくって、この間困っている子はどうぞおいでと。その間、例えば30人学級なんか10人が来たとしたら、その10人がそれぞれの学習をそれぞれでやっている中で、困っている子がいたら先生が助けたり、あるいは仲間同士でちょっと教え合ったりとか、そういったことも可能になると思いますので、その方がリソースの割き方としては、恐らく合理的なんじゃないかなという気がいたします。 個別サポートのときに何をするかというと、今申し上げたような感じですね。それぞれがそれぞれのちょっと心配なところを持ち寄って、先生のサポートだったり。その際はもう担任だけじゃなくて全員で、そこにいる全員で何がしかのかたちでサポートしていけばいいと思うんですね。そうすると、普段教えてもらっていない先生から教えてもらえたことで、逆にいい効果があったりとか、友達同士、あるいは学年越えて、その場、付き合うということも可能かもしれませんから、そういった効果も生まれるんじゃないかなと思います。
遠藤洋路 教育長	このカレンダーでいくとこの6日間、授業日に加えてそれを設けるよりも、6日間を授業日にしてもいいし、そういう個別のサポート日にしてもいいですよとすれば、学校の負担はあんまり増えないかもしれませんね。
苫野一徳 委員	そうですね。
遠藤洋路 教育長	みんな授業日にするかもしれませんけれどもね。

出川聖尚子 委員	<p>個別のサポートといったときに、教科ごとにそういう日を設けて、テストのどの部分ができていないから、ここの部分をこんなやり方したらいいよと先生が個別に指導して、そしてそれを子どもが持って帰る感じで、みんなそこで教えるというよりは、できていないところに気づいてという時間を科目ごとにどこかの1時間でも設定できるといいのかなって思っています。なかなか個別サポート日に行くということが、子どもは何か自分だけそういうところへ行かないといけないかと思うので、苦手な科目のときにちょっとやり方を聞きに行くというようなかたちで、短い時間でいいので相談日じゃないですけどもそういう時間を設けて、それが夏休みの何日間の間か、放課後か分かりませんが、多分この休みの期間に、苦手な科目をフォローするような、何か方法があればいいのかなと思いました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>分かりました。 ちょっと今、いくつかご意見が出ましたので、苫野委員、個別サポートの日はあえて夏休み中に設ける必要はなくて、学期中でいいんじゃないですか、今考えたら。</p>
苫野一徳 委員	<p>そうですね。それができるならそれでよいかなと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>だから、日というよりは、個別サポートの時間。それはこの夏休み中につくるのではなくて、7月の授業日でもいいし、9月以降の2学期でもいいけれども、その中でということではいかがですか。</p>
苫野一徳 委員	<p>その場合、先生がそれプラスアルファのということになりますよね。それが若干心配では。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それは夏休み中にやっても一緒です。</p>
苫野一徳 委員	<p>一緒なんですけれども、1日の労働時間が長くなってしまおうので、残業時間がかなり長くなっちゃうのかなというのが若干心配ではあるんですけども。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それはでも、夏休み中にやっても、その分の業務を別にやらなきゃいけないわけですから。</p>

苦野一徳 委員	総時間はそうなんですけれども。
遠藤洋路 教育長	理屈としては、いつやっても一緒なんじゃないですか。
苦野一徳 委員	総時間としてはそうですけれども。
小屋松徹彦 委員	ただやっぱり、このコロナの影響で休業時間が、休業が長かったという、ここの問題ですよ。ここでやっぱり格差ができています。これを是正するのがやっぱり早い時期だと思うから、それは夏休みとかその時期の方が、むしろ私はいいと思うんですけれどもね。そういった時間を確保するというのも大事じゃないか。
苦野一徳 委員	私が何人かの保護者から聞いたのは、夏休み期間にさらに広がっちゃうことが心配だ、格差がですね。という話を聞くので、そういった子どもたちや保護者の不安に応えることはできるのかなという気はするんですよ。夏休み期間中に、本当に塾行っている子はどんどん行っちゃうけれども、自分たちは何もできないみたいな、そういった心配を解消するという意味でも、もしかしたら夏休み中に設けるといのはありなのかなという気はするんですよ。
遠藤洋路 教育長	今年は、何か学びノート教室みたいなのはないんですか、夏休みは。
松島孝司 学校教育部長	今年の計画は、まだ私のほうでも把握はしておりませんが、例年夏休みに、今、苦野委員がおっしゃったような、担任の先生が個別に指導、サポートをするような時間であったり、子どもたちを何人か集めて、サポーターという方にサポートしていただくような場もありますが、そのようなかたちはこれまでも行われている状況ではございます。登校日ではなく、希望する子どもたち、これがほとんど先生からの声かけなんですけれども、じゃあ行きますという子がやるというのは、これまでも実績としては行われております。今年の計画はまだ把握しておりませんが、恐らく今年もそのようなかたちでの、夏休み学びノート教室、名称はちょっと変わりますが、行われるだろうという想定はしております。
遠藤洋路 教育長	名称は何ていう。

松島孝司 学校教育部長	名称は、まなびたいム。
遠藤洋路 教育長	まなびたいム。
苫野一徳 委員	それであれば、まなびたいムの充実ということでいいようには思うんですけども。
松島孝司 学校教育部長	積極的にまなびたいムも取り組んでいただくということで、周知をすることは十分あり得るというふうに思います。
遠藤洋路 教育長	分かりました。じゃあ、そういうまなびたいムの充実ということで、各学校にはお知らせをということですかね。 テレビ授業の名前と似ていますね、それ。
松島孝司 学校教育部長	そうですね。「くまもっと まなびたいム」ですか。
遠藤洋路 教育長	似ているというか、同じか。 他には、よろしいですか。 では、指導課長、高校について先ほど説明がなかったんですけども。
・議第45号 熊本市立高等学校学則等の一部改正について	
《大江剛 指導課長 提出理由説明》	
遠藤洋路 教育長	高校、それから平成さくら支援学校については、これまでもそうなんですけれども、夏季休業は各学校長が定めとなっておりますので。これは今年あえてそこを変える必要もないのかなと思いますのでこのとおりにしたいと思いますが、仮に各学校で夏休みを短くすることを選んだ場合に、授業日の途中で1学期から2学期に変わっちゃうということがあり得ますので、それがないように変えるということですね。ある意味、技術的な変更ですけども、これに関しては、ご意見、ご質問はありますか。 特に、ありませんか。 では、ないようですので、議第44号及び45号について、一括して採決を行います。 議第44号及び議第45号について、ご承認いただくことにご

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>異議ありませんでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>ご異議なしと認めます。議第44号 熊本市立小中学校の管理運営に関する規則の一部改正について、及び議第45号 熊本市立高等学校学則等の一部改正については、原案のとおり決定いたします。</p>
<p>[採決]</p>	<p>【原案どおり承認された】</p>
<p>[閉会] 遠藤洋路 教育長</p>	<p>本日の日程は全て終了したので、令和2年第6回臨時教育委員会会議を閉会いたします。</p>